



神奈川歯科大学附属病院

ニュースレター

2025 年 1 月 1 日発行 14 号

病院長 井 野 智

新年、明けましておめでとうございます

人には潜在的に身につけてしまった偏見（無意識のバイアス）や、自分の思い込みや願望を強化する情報に目が行き、そうではない情報は軽視してしまう傾向（確認バイアス）により、事象の本質を見誤ることがあるそうです。そうならば、医療業界にも導入されている人工知能（AI）はどうかというと、所詮は人間の智慧によるアルゴリズムが導入されているわけで、やはり、一定程度のいわゆる「クセ」があるそうです。また、人工歯冠の製作プロセスに導入されている CAD/CAM では、隣接コンタクトが緩くなる「クセ」があるようです。これが自己学習する「生成 AI」となると、その能力や可能性は計り知れず、倫理的側面も含めて人類にとってマイナスな事態を引き起こす可能性もあることから、昨年ノーベル物理学賞を受賞され「AI の生みの親」であるジェフリー・ヒントン博士らは、警鐘を鳴らしています。医療の現場にあって、紙カルテの時代に比べて便利になりました。また、経験を積むことで自信をもって仕事に臨むことは大切ですが、常に冷静さを持って「もしかして？」の気持ちを忘れずに行動し、患者さんの笑顔・感謝と共に持続性が担保できる附属病院を目指します。本年もご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願い申し上げます。



2024 年 11 月 1 日 附属病院は開院 7 周年を迎えました。
7 周年を記念して、12 月 2 日（月）、3 日（火）12 階ホワイエにて記念セールを開催し、多くの職員が来場しました。



新教授のご紹介 内科外来について

内科 診療教授 村上健彦



新年あけましておめでとうございます。

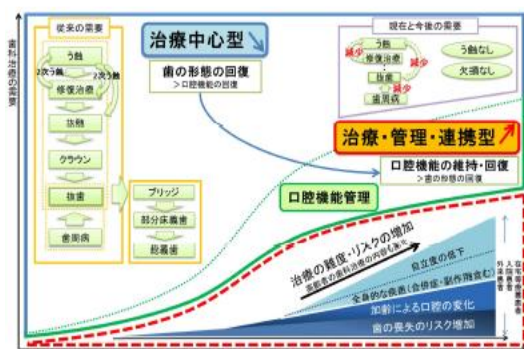
令和6年7月から内科診療科教授を拝命しました村上健彦です。広島県出身で防衛医大を平成2年に卒業しました。瀬戸内の島にルーツをもつ村上姓であり先祖はきっと村上水軍に所縁あろうと信じ卒後は海上自衛隊に任官、自衛隊中央病院副院長（教育・研究、医療安全管理・感染対策担当）兼診療放射線技師養成所長を最終配置に昨年3月末に海自を退官しました。専門は内科・糖尿病／内分泌分野で、防衛医大の4年の頃から内分泌代謝学に興味を持ち、週1回夜に学生舎内（防衛医大は全寮制です）で開かれていた勉強会などに参加し、卒後内分泌代謝学を担任する内科学講座に入局、大学院にも進学しました。附属病院のほか全国に散在する自衛隊病院等で勤務し、広島在勤中は広島大学第二生化学教室で脱リン酸化酵素の研究にも従事する機会を得、貴重な財産となっています。自衛隊医官とりわけ海自医官は総合臨床医としての活躍を期待されていましたから、上下部消化管内視鏡の技量や内科領域全般の診療技術に加えて minor surgery や整形外科、小児科等の知識技量も修得し現在でも糧となっています。自衛隊病院や艦艇では歯科医官や歯科衛生士・技工士とも協力し任務に当たっていましたので他の一般病院の医師とは異なり、歯科治療についても何かと耳にする機会にも恵まれたことが本学への入職の大きな契機となったと思う次第です。内科外来ではまだまだ診療実績の覚束ない状況ですが、誠心誠意、思いやりのある全人的医療を実践し、着実に集患実績等を上げ当院の診療業績向上に貢献して参る所存です。浅学非才の身ではございますがどうぞよろしくお願い申し上げます。

医科・歯科・栄養連携によるフレイル予防への取り組み

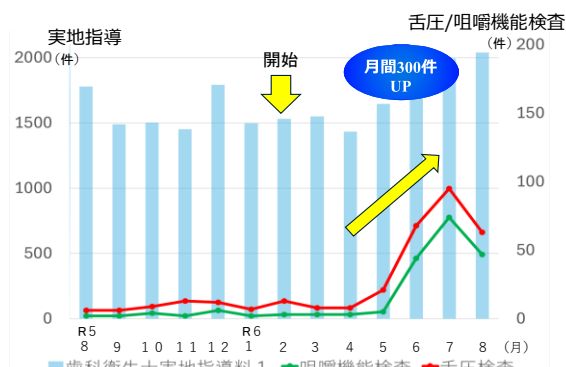
副病院長・障がい者歯科 教授 小松知子

年々、増加傾向にある高齢者や障害者の ADL 低下の防止や医療的ケア児などへの発達支援等を効果的に行うために、多種職連携・協働による地域包括型の医療提供体制を構築することは大切です。疾病・障害の重症化予防や多様性への対応における栄養管理、口腔管理の連携体制についての関心は高まっております。口腔疾患の重症化予防、口腔機能低下への対応の充実、生活の質に配慮した歯科医療の推進として、厚生労働省が示した「歯科治療の需要の将来予想」では、歯科治療の需要は歯の形態回復などの治療中心型から、口腔機能の維持・回復を目指した管理・連携型へと変化していくものとしています。

当院では、医師、歯科医師がハブラシコンセイ®や管理栄養士などのコデンタルと密な連携を図り、ハブラシコンセイ®による歯科衛生管理指導や口腔機能低下症の検査などを積極的に行っています。口腔管理・栄養管理は、う蝕、歯周病の対応だけではなく、オーラルフレイルから始まるフレイル・低栄養・要介護状態の予防に欠かせません。このような取り組みを日本でも先進的に進めながら、地域歯科診療支援病院でもある当院は、院内・外の歯科・医科・栄養を含めた多職種と有機的な連携を図ることで、「口から美味しく、楽しく、安全に食べて健康長寿を実現したい」、患者さんのニーズに応えていきたいと考えております。何卒よろしくお願い申し上げます。



歯科治療の需要の将来予測
厚生労働省「中医協(第376回)」資料より引用



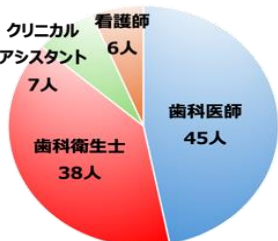
ハブラシコンセイ®による実施件数
補綴科・義歯診療部門 西村沙穂子,他より提供

院内におけるコデンタルの活動をご紹介します！

ハブラシコンセイエ®としての歯科衛生士の役割

メインテナンス部 歯科衛生士長 辻上博美

当院では、口腔健康用品への一定の理解を有する職員に対し、「ハブラシコンセイエ®」と認定し活動をしています。常勤歯科衛生士におけるハブラシコンセイエ®取得率は100%です。ハブラシコンセイエ®を取得した後も、定期的に講習会を開催し、口腔清掃用具の最新情報だけでなく、最近は全身の健康につながる「食・栄養」や「オーラルフレイル対策用品の説明」なども取り上げ、知識のブラッシュアップをしています。ハブラシコンセイエ®の歯科衛生士は、患者さんへは口腔機能低下症に関する情報を提供し、歯科医師の指示のもと、歯科衛生実地指導、口腔機能検査を実施し、その検査結果に基づいて、舌圧・口唇閉鎖力・嚥下機能を向上させるためのトレーニングなどを行なっています。患者さん自身が、自主性をもって自己管理できるように、個人の環境・性格等に考慮して、ハブラシコンセイエ®心得五か条にある「患者さんの健口を願うこと」を実践しています。



ハブラシコンセイエ®の構成職種と取得状況



歯科衛生士による口腔機能検査の実施



口腔機能低下症の情報提供

歯科・栄養連携における管理栄養士の役割

管理栄養部 管理栄養士 伊藤 美穂



栄養指導に関する院内掲示

私自身が「栄養指導」と聞くと、「怒られるんじゃないか」という印象があります。ときおり、当院に転院して栄養指導に来られる患者さんから「これもだめ、あれもだめと前の病院で言われて、じゃあ私は何を食ったらいいの」と悩みを打ち明けられることがあり、いわゆる「ダメダメ指導」はまだ生き続けているのかと思い知らされます。ところが今年度、医科歯科連携強化で栄養指導の案内をエレベーターなどに貼っていただいたところ、「栄養指導を受けたい」とのご要望を何件かいただきました。栄養士は病院のどこにいるのかわからなかった時代から、今は特定機能病院で管理栄養士を病棟専従にすると、診療報酬が加算となる時代になりました。メディアやSNSでの管理栄養士の活躍もめざましく、いよいよNHK連続テレビ小説の題材にまでなり、地下にいた栄養士が地上に出たと栄養士会内では盛り上がっています。私も当院スタッフのお力をお借りして、少しでも「食事の相談に乗ってほしい」と思える環境づくりを目指しているところです。先日はやわらか食の試食会を開催し、最新の食情報を院内で多職種と共有しました。医科・歯科と連携し、生涯食べたいものを食べられる環境を患者さんと作っていただける存在でいることが私の使命かなと思っています。



嚥下食サンプル試食会



管理栄養士による栄養指導

2024 年 KDU アワード受賞



大橋 桂先生



莊司 琴さん



井野病院長と歯科衛生士一同

2024 年 12 月 19 日（木）学校法人神奈川歯科大学の忘年会が開催され、法人内の各部門からそれぞれ最も目覚ましい活躍のあった教職員が表彰されました。

附属病院部門からは「総医局長 大橋 桂」先生、「メンテナンス部 歯科衛生士 莊司 琴」さんが表彰されました。

鹿島理事長から KDU アワードの賞状と心づけが授与されました。

今回受賞された大橋先生は 2021 年 5 月、国家プロジェクトとして始まった「歯科医師によるコロナワクチン接種」の実施及びワクチン接種の「特設会場」の設置や役割分担などに積極的に取り組まれました。当院でのワクチン接種回数は 5,975 回（一般市民を含む）を数え、大橋先生自らもワクチンの打ち手として陣頭指揮をとられたことが評価されました。

メンテナンス部（歯科衛生士）からは莊司歯科衛生士が受賞しました。2020 年「横須賀市の歯及び口腔の健康づくり推進条例」の施行と共に、「ハブラシコンセイユ認定制度」の立上げに尽力しました。この制度はのちに「予防歯科ムーブメント」として患者さんへの様々な利益をもたらすとともに、口腔衛生実地指導件数を 2.5 倍へと増加させました。これは歯科衛生士による口腔機能検査・指導へとつながり、蔓延したコロナ禍からの脱却と予防歯科医療の充実化に大きな貢献がなされたと評価されました。受賞された皆様の益々のご活躍を期待します。

地域連携室から

神奈川歯科大学附属病院では地域連携室で他医療機関からのご紹介や患者様からのご相談、予約管理に対応させていただきます。

お気軽にご相談下さい。

〒 238-8570

横須賀市小川町 1-23

神奈川歯科大学附属病院 地域連携室

電話 046-822-8877

FAX 046-822-8888

<http://www.kdu.ac.jp/hospital/>

